

木曽地域のめざす姿 豊かな自然と歴史・文化に育まれた「木曽らしい」暮らしを維持する地域づくり

木曽地域の4つの「重点政策」

1 林業・木材産業の振興と森林資源を活かした二酸化炭素吸収源の確保

地域材の高付加価値化を目指し、人材育成・2050ゼロカーボンを進める

取組内容

【林業・木材産業の振興】

- JAS(日本農林規格)工場を核とした地域製材工場の水平連携体制づくりなど、地域材の高付加価値化を推進
- 適切な森林整備(間伐、主伐・再造林、路網整備)を計画的に実施
- 民間建築物への波及効果が高い、公共施設等の木造・木質化による地域材の普及啓発と需要拡大



【林業・木材産業の人材育成】

- 林業大学校、上松技術専門学校、木曽青峰高等学校による3校連携をはじめ、産学官連携を深め、人材の確保や技術の向上等林業・木材産業の後継者対策を推進

【地域資源を活かした自然エネルギーへの転換、二酸化炭素排出抑制】

- 公共施設等での木質バイオマス利用や木質バイオマス生産施設等の整備を促進
- 農業用水を活用した小水力発電施設の整備を推進

達成目標	指標名	製材品出荷量 木材流通調査(林務部)
	現状	12,396m ³ (2020年)
	目標	15,000m ³ (2026年)

2 木曽らしさを活かした観光振興

地域の関係者が一体となって木曽路の魅力を発信し、観光客を増やす

取組内容

【日本遺産を活かした観光地域づくりと広域観光の推進】

- 「日本遺産」に代表される地域資源の魅力や価値を様々な視点から磨き上げ、発信するとともに、食や工芸など地域文化が体験できる観光地域づくりを促進
- リニア中央新幹線の開業等を見据えた広域観光や地域内の周遊を促す観光誘客を推進



【御嶽山の魅力発信】

- 「御嶽山火山マイスター」と連携し、「御嶽山を知り、火山を理解し、次世代につなげる学びの場」である「御嶽山ビジターセンター」を情報発信拠点として活用
- 御嶽山の優れた自然環境の一層の保護を図るとともに、御嶽山一帯の魅力や価値を発信し、国定公園化を推進

達成目標	指標名	観光地延利用者数 観光地利用者統計調査(観光部)
	現状	155万人(2021年)
	目標	225万人(2027年)

3 地域防災力・減災力の強化

河川・土砂災害、地震などの自然災害への対策、御嶽山の安全対策を進める

取組内容

【地域の強靱化】

- ハード対策として、河川・砂防・治山・農業関連施設の整備、住宅・建造物の耐震化促進等を推進
- ソフト対策として、ハザードマップ作成支援、防災訓練等を実施



【御嶽山安全対策】

- 「御嶽山ビジターセンター」を活用し、リアルタイムの情報発信や安全登山啓発等のソフト面での対策を強化



達成目標	指標名	地区防災マップ作成地区数 (木曽建設事務所調)
	現状	29地区(2021年度)
	目標	44地区(2027年度)

4 人口減少下における持続可能な地域づくり

安心できる暮らしを確保し、生活・産業活動基盤の維持、確保を図る

取組内容

【医療】

- 信州大学、信州木曽看護専門学校等との連携による医療従事者の確保や木曽圏域内外の医療連携を推進
- 遠隔診療の導入や医療人材の広域的確保等の取組を支援し、質の高い医療提供体制を確保

【道路、交通】

- 国道19号の整備及び安全対策の促進
- 東西の交流を支える国道256号、国道361号の整備を推進
- 木曽川右岸道路、姥神峠道路の整備を推進
- 「木曽地域公共交通活性化協議会」における地域公共交通についての対策を促進

【産業人材の確保】

- 郡内2高校の生徒等に対して、地域就業を促進
- 木曽の特色ある農業と食文化を次世代に継承していく多様な担い手の確保・育成
- 子どものうちから「木曽らしさ(自然、歴史・文化など)」の学びを促進



【ブランディング等の推進】

- 地域の価値やイメージを高めて定住や移住を促進するなど、地域が一体となったブランディングへの取組
- 中京圏との木曽川上下流交流による地域の活性化
- 「相撲」を核に、様々なスポーツ活動やイベント等と連携し、スポーツと健康をキーワードに地域づくりを推進

【広域連携の推進】

- 「木曽広域自立圏連携ビジョン」等に基づき、県、町村、広域連合が連携した取組を推進

達成目標	指標名	移住者数 (企画振興部調)
	現状	178人(2017~2021年度累計)
	目標	250人(2023~2027年度累計)